

原点回帰へ大転換

いよいよ宗門も正念場に入ってきたと思います。大決断を随所で迫られていることと思います。私も前半の住職人生の集大成として本堂改修落慶を目前に奮闘の日々です。なかなか目まぐるしい変化の中で対応に追われています。しがらみを絶ったためやり易くはなりましたが生活には忙殺されています。日本社会は大阪大学の研究論文によれば嫌悪の文化という結論に至ったそうです。他人のことをあれこれ詮索し忌み嫌う特性があるとのこと。これが今日の日本社会全体の衰退、停滞の要因と断じております。コロナ禍は人間関係の見直し、人生計画の立て直しを迫られました。そして一人一人がこれまでの自分自身と向き合うよい機会を与えられました。未来の自分の方向性についても問い直すことになりました。私は今改めて原点回帰の時を迎えております。葬儀改革に奔走していた10年前を思い出し葬儀を自らの手で行うこと。本堂で本来の宗教儀礼と説法を行うこと。これが究極の葬儀という信念の下 果敢に取り組んできました。今や葬式仏教の終焉 先祖教の崩壊が叫ばれています。当院もここに来て停滞感が漂い始めております。惰性とあきらめから脱却するためにもここは私がもう一度原点回帰をして初心に戻らないといけません。これからは私自らが夜中の遺体搬送から安置、葬儀導師、司会進行、出棺から霊柩 火葬読経から式場案内まですべて一人で行おうと決意しました。これによりすべての無駄を省き手作りで心の葬儀が完成します。拝みだけでふんぞりかえっ
ていても仕方ありません。なんでもできるぞというところを見せないといけません。葬儀社を介在しなくても一人でもすべてできる
ところを見せないといけません。昔は隣組と親族でやっていました。当院は日本で最初に包括法人(本山本部)から霊柩業務の認証を

受けました。県知事の承認も得ております。これからの僧侶は宗教儀礼から遺体搬送 納棺師 事務全般ができて当たり前になるでしょう。超僧侶を目指すべきです。お高く止まっていることには何の意味もありません。もっと泥臭くてもよいと思います。心が汚れていなければ問題はあります。むしろもっと身を粉にして働くべきです。今年はイノベーションを起こす時です。全分野で世代交代をする時です。当院でも中高年の職場から若年層（20～30代）を中心とした組織に編成し直さないといけないと思っています。もう一度スタートアップとして再スタートを期しております。当院でもなかなか新しいことに挑戦していく機運が生まれなくなりつつあります。私がもう一度原点回帰をして狼煙(のろし)を上げなくてはなりません。IT・AIをもっと駆使して攻勢をかけないといけません。これからも「攻めて守らず」(孫氏の兵法)の姿勢を崩すことなく挑戦を続けます。生涯一修行僧 一生の挑戦者でいたいと思います。結局は生き残って結果を出したものが勝ちです。人生は正直です。転ばぬ先の杖というホトケが人々を導きます。私は今「人生とは謎解きゲーム」であるとさとりました。すべては禅問答である。と。道元は現成公案と言いました。不思議なことは起きていません。あるのは当たり前のことだけです。それを知ることだけです。現実を正法眼で見ればこの世は釈迦牟尼の道場であり無情説法です。あるのは神との対話だけです。悟りの世界で遊泳しているだけです。そのことだけのために人生はあります。 合掌

令和5年2月23日 天皇誕生日 見性院住職